

音声コミュニケーション機器導入事例





ヤマハの遠隔コミュニケーションシステムが全国各地で活躍中。

皆さまの近くにあるヤマハ製品を「お客さまの声」とともにご確認ください。

選定ポイントや導入後の効果などお役立ち情報が満載です。



INDEX

地域	都道府県	業種	シーン	社名・団体名	メイン導入機種	ページ
北海道	北海道	オフィス	Web会議	株式会社鈴木商会	YVC-330	P02
東北	青森	オフィス	Web会議	エプソンアトミックス株式会社	RM-CG、RM-CR、SWR2100P-5G、PA2120、VXC4W	P03
	岩手	オフィス	Web会議・Web面接	エクナ株式会社	YVC-1000	P04
	山形	文教	Web会議	山形大学 生活協同組合	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P05
関東	茨城	官公庁・自治体	Web会議・セミナー・議事録作成	取手市役所 (取手市議会事務局)	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P06
	東京	オフィス	Web会議・セミナー	株式会社グリーンハウス	YVC-1000、YVC-300	P07
	東京	オフィス	Web会議	日本貨物航空株式会社	RM-CG、RM-CR、SWR2311P-10G、VXL1W-16P	P08
	東京	社団法人	Web会議	一般社団法人 日本取締役協会	RM-CG、MRX7-D、SWR2100P-10G、PA2120、VXC3FW	P09
	東京	文教	遠隔授業	東京大学教養学部・大学院総合文化研究科	YVC-1000	P10
	東京	ホテル	Web会議	株式会社丸ノ内ホテル	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P11
	千葉	プロサッカークラブ	記者会見	ジェフユナイテッド市原・千葉	YVC-200	P12
中部	静岡	官公庁・自治体	Web会議	浜松市役所	YVC-300、YVC-330、YVC-1000	P13
	愛知	オフィス	Web会議・商談	株式会社八神製作所	YVC-330、YVC-200	P14
	愛知	文教	遠隔授業	MIE Fellow 岩田智文教諭	YVC-1000	P15
	新潟	オフィス	Web会議	株式会社サカタ製作所	YVC-1000、YVC-MIC1000EX、YVC-330、YVC-300、YVC-200	P16
近畿	京都	文教	遠隔授業	京都府教育委員会	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P17
	京都	文教	Web会議・遠隔授業	京都大学基礎物理学研究所	RM-CG、RM-CR、SWR2311P-10G、VXL1W-16P	P18
	大阪	オフィス	Web会議	株式会社ハートス	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P19
	大阪	文教	遠隔授業	泉南市立一丘中学校	YVC-1000	P20
	兵庫	協同組合	Web会議・セミナー	兵庫県信用農業協同組合連合会	YVC-1000、YVC-330	P21
中国・四国	広島	社団法人	Web会議	一般社団法人 福山市医師会	YVC-1000	P22
	島根	財団法人	Web会議・セミナー	公益財団法人 しまね文化振興財団	YVC-1000	P23
九州・沖縄	福岡	オフィス	Web会議	日本乾溜工業株式会社	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P24
	大分	官公庁・自治体	Web会議・議事録作成	大分県日出町	YVC-1000、YVC-MIC1000EX	P25



株式会社鈴木商会

導入機種 YVC-330／1台

導入時期 2021年12月

使用Web会議
アプリケーション

Microsoft Teams／Zoom

基本構成・
使用環境 5.5m×7mほどの会議室から6名でオンライン会議を行うためにYVC-330を1台使用。

音質や收音能力の高さに驚き！今までの聞こえにくい・伝わりにくいというオンライン会議のイメージが一変。

導入の背景

以前より、PC内蔵のマイク・スピーカーや他社製のカメラ付きスピーカーマイクを用いて、オンライン会議や講習会の受講を行っていましたが、音質や收音性能に不満がありました。マイクに近い人と離れた人で声の拾い方に大きな差があり、声以外の環境音を拾ってしまうこともしばしば。また、社内のオンライン英語教室では本社側にいる英語講師の話が不鮮明で聞き取れず、オンラインで学ぶのはなかなか難しいと半ばあきらめていました。どうにか改善したいと思っていたときに、ヤマハのYVC-330を知り、ネット上での評判を見てみると、レビューされている皆さまが「とても良い」と大絶賛！それに加えて本社では既に導入していたことも分かり、その感想も上々だったことから、この機種で間違いないと確信し、ここ石狩事業所でもすぐに導入を決めるに至りました。

導入後の効果

導入後に初めて使用した際、まず音質と收音能力の高さに驚きました。オンライン会議に合わせた音質のスピーカーから聞こえてくる相手の声は、今までの機器と比べて本当に聞き取りやすく、同僚たちも驚いていました。また、会議室の各席からの発言を確実に拾い、相手に届けてくれる複数のマイクの性能も良く、モニター越しの相手も「今までよりも断然聞こえやすい」と喜んでいました。導入初回の会議では、皆それぞれ小さい声で話したり、離れたところから話してみたりと、会議そっちのけで性能テストを行ったのですが、皆口をそろえて「さすが世界のヤマハクオリティだ！」と感激していました。

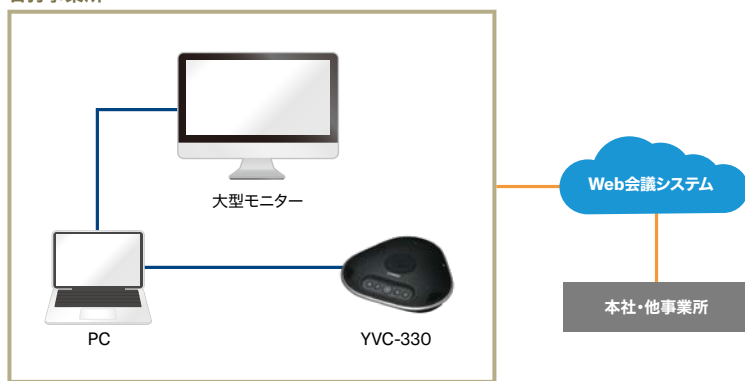
今までの聞こえにくい・伝わりにくいというストレス満載のオンライン会議のイメージは、このYVC-330のおかげで一変したといっても過言ではありません。これならお互いの声が聞き取りにくいというオンライン会議特有の煩わしい部分が軽減できますので、本機のおかげで今までよりも積極的に打ち合わせを行うことができるようになりました。

選定のポイント

やはり第一には、他社を圧倒する性能の高さです。收音能力やスピーカーからの音の聞きやすさは、実際に体感してみると目からうろこレベルの品質で、さすが老舗音響メーカーであるヤマハの製品だと感じました。

他社製では、もっと安価な製品もたくさんありますが、今後もオンライン会議を頻繁に行うことを考えると、価格よりもストレスなくコミュニケーションができる性能を重視して機器選定すべきです。そのため機器を使う会議室の大きさを考慮ながら、優先順位をつけて機種選定を行うことに。当事業所の会議室は、8名向け・6名向け・12名向けの3室あるので、まずは最も使用頻度の高い6名向けの会議室に導入することに決め、バランスの良いYVC-330が最適と判断しました。

石狩事業所





エプソンアトミックス株式会社

導入機種	ADECIA (RM-CG、RM-CR、SWR2100P-5G、PA2120、VXC4W)、VSP-1		
導入時期	2021年4月	使用Web会議アプリケーション	KX-VC1300 (Panasonic) / TV会議システム
基本構成・使用環境	本社と北インター事業所の2拠点の会議室で社内、社外との打ち合わせや研修会などで使用。		

リモート会議の準備時間削減と安全のため、ケーブルレス・天井設置型のADECIAを導入。

導入の背景

当社はスマートフォンやパソコン、自動車部品、医療機器、ロボットなどの電子部品の原材料となる金属粉末などを製造しており、世界中の製品で使用されています。コロナ禍以前から拠点間で遠隔会議を行っており、準備の手間がない天井設置型のマイクの検討をしていました。さらにコロナ禍で海外・国内出張が全滅となり、社内のテレビ会議だけでなく、Web会議でも使えて、しかも音が良いマイクの必要性が急速に高まったのです。

導入後の効果

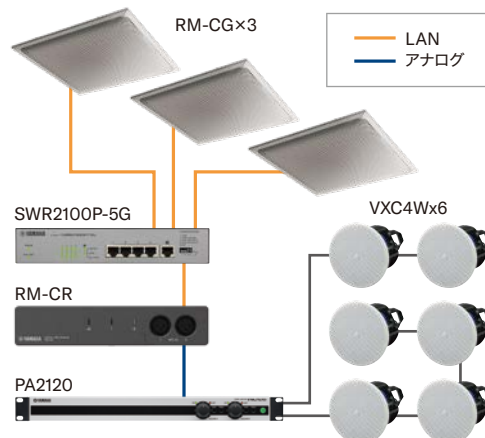
現在当社では、本社と北インター事業所という2拠点の会議室に「ADECIA」を導入していて、毎日使用しています。まず準備の面ですが、かかる時間はゼロになりました。今までのようにマイクの設置やケーブルをまとめるといった準備が不要になったことに加え、USB以外のケーブルが表に出ないので、すっきりして見栄えがいいですね。

また、ケーブルに足を引っかけて転倒するといったリスクがなくなったことも高く評価しています。我々は製造業ですので日頃から危険予知に注意を払っていて、顕在化しているリスクは可能な限り排除したいと思っています。会議室の床にケーブルがあれば、足を引っ掛けて転倒するリスクがあるので、そのリスクは排除したいと考えていたんです。

音声面では、天井のマイクは会議室にいる全員の声をきちんと拾ってくれますし、スピーカーも部屋の形にあわせてシーリングスピーカーを複数台設置しましたので、リモート先の参加者の声も全席でしっかり聞こえるようになりました。また、ノイズリダクション機能にも驚かされました。以前はエアコンや換気扇、外を走るトラックなどさまざまな騒音を拾っていましたが、「ADECIA」は人の声を判別するので、先方では我々の声だけがクリアに聞こえているんです。今後コロナ禍が収まっても、出張などの経費削減や生産性の向上にも貢献するリモート会議は、より活発化していくと思います。

選定のポイント

実は、それまでの社内会議でもヤマハの「YVC-1000」を使っていました。「ADECIA」を選んだのは、これまで使っていたヤマハの会議用のスピーカーフォンが使いやすくても音も良く、不具合も少ないということで、ヤマハの製品への信頼性があったことが大きいのです。それとコロナ禍で実機のデモはできませんでしたが、Webのデモ動画がわかりやすかったこと、ヤマハ営業担当者さまに親切なご対応をいただき、信頼できると感じました。





エクナ株式会社

導入機種 YVC-1000

導入時期 2022年、2021年
2020年、2007年

使用Web会議
アプリケーション Microsoft Teams

基本構成・
使用環境 会議室(定員30名)・ミーティングルーム(定員6名)・応接室
(定員4名)でオンライン会議を行うために、部屋のサイズに
合わせてそれぞれの機器を使用。

音にこだわりを感じる技術と信頼性を兼ね備え、 リアルな音声でWeb面接からWeb会議まで満足度アップ。

導入の背景

以前は、本社会議室に大型ディスプレイとビデオ会議システムの専用機を設置して運用していました。しかし新型コロナウイルス対策により1カ所に集まる人数を制限したため、Microsoft Teams等を使用する少人数でのWebミーティングの回数が増えてきていました。そこでパソコンと接続して使用するWebカメラや小型スピーカーフォンを導入してみたものの、音量が小さく、会議に参加する技術者からは不評という結果に。さらに小型スピーカーフォンでは、細かいニュアンスが聞き取れないときがあり、ビデオ会議の音声品質への不満が高まっていました。とはいえ、単純に大きなスピーカーを導入してしまうとハウリングの問題が起こることを体験していたので、優れたエコーキャンセル機能が搭載されたスピーカーフォンを求めています。

導入後の効果

現在、YVC-1000を下記の3シーンにおいて活用しています。

1. 採用時のWeb面接
2. 拠点間の責任者の会議
3. システム開発の会議

Web面接では映像情報も重要ですが、スピーカーからの音声情報が大切です。応募者のプレゼンテーション能力等を判断するために、精細な音声伝わるスピーカーフォンはなくてはならないものになりました。

拠点間の責任者の会議でも活用されており、初回の稼働時には、リアルな音声で再生されたことに驚きの声が上がったほどです。廉価なスピーカーフォンと違い、音響メーカーが最新の技術を投入して製造した音響用機材であることを実感しています。

選定のポイント

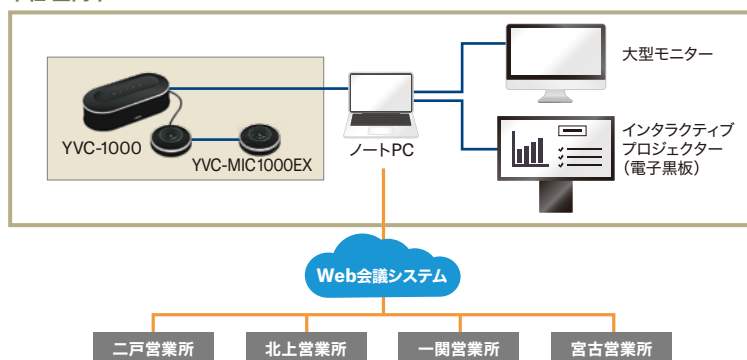
まずヤマハ製品への絶対的な信頼が大きなポイントでした。その上で注目したのは、

1. 音が大きいこと。
2. 遠隔地の発言者のニュアンスが感じられること。
3. マイクに優れたエコーキャンセル機能が搭載されていること。
4. 高い信頼性があること(トラブルの発生が少ないこと)。
5. 高い耐久性があること(故障がないこと)。

の5点です。ヤマハ製品は、インターネットの黎明期からISDNルーターを皮切りに民間企業や医療機関に多数の商品を納品しており、トラブルや故障が少ないことは知っていました。もちろん音に対するこだわりがとても強い会社だと承知していましたので、特に最重要会議で使用する機器についてはヤマハ製を採用したいと思っていました。



本社 盛岡市





山形大学生生活協同組合

導入機種 YVC-1000／1台、YVC-MIC1000EX／2台

導入時期 2021年12月 使用Web会議アプリケーション Google Meet／Microsoft Teams／Zoom

基本構成・使用環境 15m×20mほどの講義室でのオンライン会議用にYVC-1000とYVC-MIC1000EXを2台使用。3m～5mほどの会議室ではYVC-1000を使い、参加人数によりYVC-MIC1000EXを1台追加。

マイクの收音能力の高さにより参加者双方のストレスが軽減。運営面でも業務時間の短縮化に貢献。

導入の背景

山形大学生生活協同組合は、山形大学から福利厚生をメインとして、コンビニ・食堂・文具サプライなどの個人販売や研究費等での納品などを業務委託契約に基づき運営しており、山形県内4キャンパス全てに事業所があります。コロナ禍以降は、経営会議や各店舗間会議、学生とのミーティングなどをWeb会議ツール（ZoomやMicrosoft Teams）で行ってきましたが、音響・音質レベルの浮き沈みなどが大きく、円滑な運営に弊害が出るケースが多々ありました。そのため、フレキシブルで、誰が運用しても一定レベルを保つことができる音響ツールを求めています。

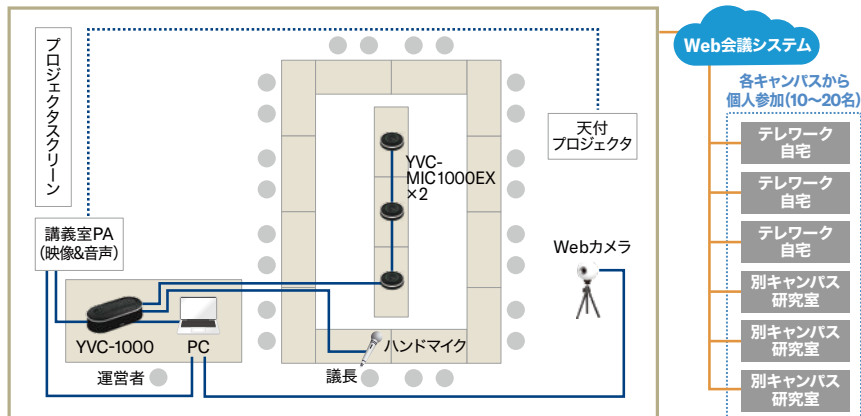
選定のポイント

必ずしも、静かな環境下のみで会議運営できるとは限らないため、ノイズリダクションやエコーキャンセル等は高レベルな仕様が求められます。さらに会議の規模が2～3人（小規模）から20～30人（中大規模）まで幅広いことや、対面とオンライン参加が混在する説明会も多く開催していることを加味し、これらの要望に応えられる製品としてYVC-1000をマイク2台追加で導入しました。YVC-1000より安価な製品もありましたが、製品品質や各種機能の高さを考慮すると決して高価ではなく、むしろ無駄がない分、経費を抑えることができたと感じています。

導入後の効果

マイクの收音能力が高いことにより、参加者全員のストレスが軽減されました。静かな会議室では小さな声も拾ってくれ、さらにオートゲインコントロールによって音量レベルが一定化されるので、会議進行がとてもスムーズです。初めて本システムを使用する参加者からは「この声でも拾うの?」「全てハンドマイク利用のように聞こえてくる」「音量レベルが一定化されているのでオンライン参加でも集中しやすい」「ノイズリダクション効果によって雑音が聞こえにくくなり聞き返すことが減った」という感想が多く集まっています。ハンドマイク接続でのスピーカーアウト切り替えも使い勝手が良く、マイク追加で大人数に対応できる点も、活用の場を広げてくれます。またPC音声のミュートとの連動を可否設定できるため、本体設置場所を問わない運営が可能です。会議運営する複数の職員からは「接続や設定が簡単で、詳しい職員がいなくても安心」「物理ボタンが確実な操作感をもたらしてくれる」「会議形式に合わせて複数システムを準備しなくて済み業務時間の短縮化に繋がった」という声が寄せられています。会議参加者、運営者の双方から高い満足度が得られていることから、この製品の導入が今後の事業運営に大きな好影響をもたらしてくれることを確信しています。現在は合計マイク3台構成ですが、これからはさらに会議に参加する人数が増えることが予想されるので、それに合わせてマイクの追加導入も検討しています。

本部キャンパス講義室





取手市役所（取手市議会事務局）

導入機種 YVC-1000／1台（＋拡張マイクYVC-MIC1000EX）

導入時期 2021年4月 使用Web会議アプリケーション -

基本構成・使用環境 議会事務局にてYVC-1000を導入し、Web会議用のマイクスピーカーとして利用。本会議場など広いスペースで大勢が参加する会議やセミナーでは、拡張マイク（最大5台）を接続。

Web会議のほかオフラインの会議でも、さまざまなシナリオでYVC-1000の高性能マイクと高出力スピーカーが大活躍。

導入の背景

取手市議会事務局は、本会議や委員会の書記業務、議事録作成や議会だよりの編集・発行など、議会活動全般をサポートしています。議会活動でのICT導入・活用を積極的に推し進めており、令和3年には「議会改革度調査2020総合ランキング（早稲田大学マニフェスト研究所）」において、全国で第1位にランクされました。当事務局では、以前よりサテライトでの分散勤務や在宅勤務に取り組みつつWeb会議導入を進めてきましたが、当初使用していたグースネックマイクは複数のマイクをONにするとハウリングが発生しやすく、大きな悩みでした。マイクOFFを基本として対処していたものの、発言のたびのON/OFF操作が煩わしく、スムーズな進行の妨げになっていたのです。また、大きなグースネックマイクを都度運ぶ必要があったことも、議会事務局にとって負担でした。

選定のポイント

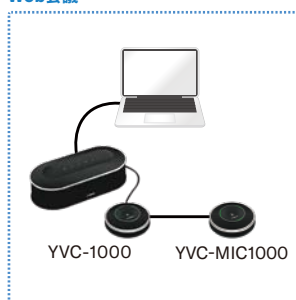
これらの状態を改善しようと家庭用のマイクスピーカー製品などを試していたところ、議事録作成システムなどで取引のあったベンダー（株式会社アドバンス・メディア）から提案されたのがYVC-1000とYVC-MIC1000EXです。複数参加者の声を1台で收音できるためハウリング発生の心配がなく、会議スペースへの持ち運びやセッティングが容易であること、オプションの拡張マイクを追加すれば広い会議室で十分なディスタンスを確保でき、複数に参加するWeb会議にも対応できることが主な理由です。また、当事務局ではAI音声認識技術により、会議時の発言を高精度に自動テキスト化する「AmiVoice」を導入しています。その高い收音力から「AmiVoice」の認識率を向上させる目的でYVC-1000をセットで導入するケースが多いという点も、選定理由のひとつです。

導入後の効果

YVC-1000の活用範囲はオンライン開催のWeb会議だけでなく、オフラインにも広がっています。前述のように、取手市は他自治体に先駆けて2006年に議事録作成システム「AmiVoice」を導入し、職員の作業工数や速記反訳の外注費など年間約500万円超のコスト削減を実現しています。本会議のほか各種委員会や会議などで幅広く利用していますが、文字変換の精度を左右するのが録音の音声品質です。幅広いエリアをカバーしクリアな音声の收音が可能なYVC-1000の優れたマイク性能は、まさにこの議事録作成システムにうってつけでした。これまで、マイクなど音響設備のない会議室では、ICレコーダーを中央において録音していましたが、マイク性能が低くクリアで十分な音量の音声を確認することができないケースもありました。ICレコーダーの外部マイクとしてYVC-1000利用するようになってからは、十分にディスタンスを確保しつつもクリアな音声を収録でき、より精度の高い文字変換を実現しています。この他、広いスペースでのセミナーや講演などでは、ハンドマイクをYVC-1000に接続し大出力の外部スピーカーとして使うなど、幅広いシーンで活用しています。



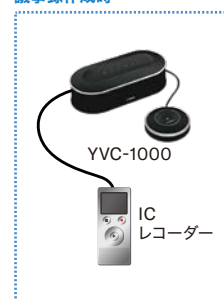
Web会議



セミナー時



議事録作成時





株式会社グリーンハウス

導入機種 YVC-1000、YVC-300、STAGEPAS 400BT、MG12XU、XD-V35、MSP3A

導入時期 2019年11月、2021年12月

使用Web会議アプリケーション -

基本構成・使用環境 YVC-1000にミキサーMG12XUを接続し、ワイヤレスマイク4台を追加。

YVC-1000にミキサーやPAシステムを接続し 大規模会場でのハイブリッド会議にも対応。

導入の背景

株式会社グリーンハウスは、全国2,500超の企業などの社員食堂や、レストランの経営など、食と健康とホスピタリティに関する事業を展開しています。経営会議や外部講師を招いての社内セミナー、研修といった大規模な会議、社内イベントを開催していましたが、移動の負荷や時間、出張コストが課題となっていました。そこで、いわゆる“ハイブリッド会議”の実現に向けて、Web会議ツールやマイクスピーカーなど必要なソフトウェア／ハードウェアの選定と環境整備を進めました。

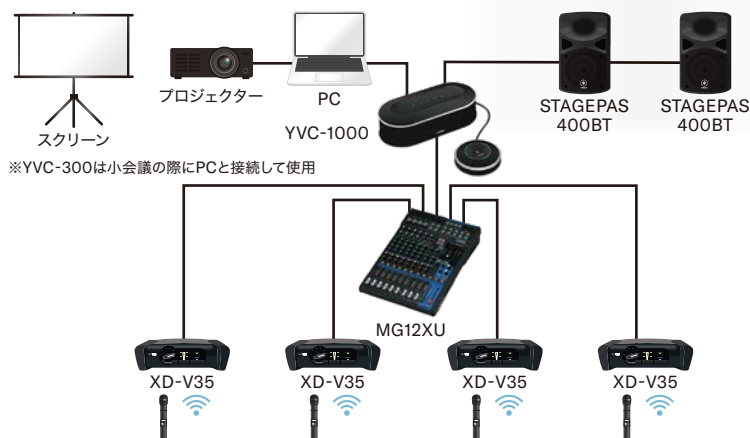
選定のポイント

複数のWeb会議ツールを評価すべくデモを実施する中で、ひときわ目をひいたがヤマハのマイクスピーカーシステムYVC-1000でした。そこで体験した音声品質のクオリティやセッティングを含む操作の容易性、工事不要で導入でき可搬性にも優れていることなどを評価し、大規模会議用にYVC-1000、小規模会議用にYVC-300の導入を決定しました。現在は各拠点における、さまざまな主体・規模の会議で利用しています。当初は東京本社のみ3台からの導入でしたが、全社計14台まで拡大しています。

導入後の効果

2020年春以降のコロナ禍では、ハイブリッド開催の会議・イベントにおける新たな課題が顕在化しました。飛沫防止のパーティションを各所に配置したため、YVC-1000の標準マイクでは、参加者全員の声をクリアに拾って拠点側に届けることが難しくなり、また東京本社においても、参加者同士のディスタンスを確保するために、会議室の仕切り壁を取り払ってスペースを拡張した結果、参加者の音声を隅々まで届けることが難しくなってしまったのです。そこで、これらの課題解決に向けて自ら情報収集を進めつつ、ヤマハの営業担当に相談したところ、YVC-1000の高い拡張性を生かしミキサーを介してハンドマイクを外部接続し、収音力を強化。さらに高出力のPAシステムを外部接続することで、クリアかつ十分な音量を確保するプランをご提案いただきました。

ヤマハから実機を借りて検証を行ったところ良好な結果が得られたため、2021年12月からは、ミキシングコンソール「MG12XU」とワイヤレスマイクセット「XD-V35」に加えて、PAシステム「STAGEPAS 400BT」を追加導入しました。これによって、100名超収容可能なスペースでのハイブリッド会議にも対応可能な、余裕ある環境が実現できています。





日本貨物航空株式会社

導入機種 ADECIA (RM-CG、RM-CR、SWR2311P-10G、VXL1W-16P)

導入時期 2021年4月 使用Web会議アプリケーション Zoom

基本構成・使用環境 会議やセミナーなど用途に応じて机のレイアウトを自由に変更するために天井設置型のマイクを選定。

遠隔会議の急増とオフィス移転を機にADECIA導入。 天井設置型マイクでレイアウト変更の手間を削減。

導入の背景

弊社は日本で唯一、貨物専用機のみを運航する航空会社です。成田空港に自社の整備ハンガーがあり、そこが本社となっています。今回ADECIAを導入したのは浜松町にある東京事業所で、管理部門、営業部門の拠点になります。弊社はたまたまコロナ禍前から働き方改革の一環としてフリーアドレス化を推進していて、テレワークにも対応していました。しかしコロナ禍以降、遠隔会議が急速に増加し、部署内の会議や海外支店とのやり取り、そして今までは出張していたような会議もリモートになりました。そこで、さまざまな会議体で机のレイアウトに左右されず、よりクオリティの高い遠隔会議を行うために「ADECIA」を導入しました。

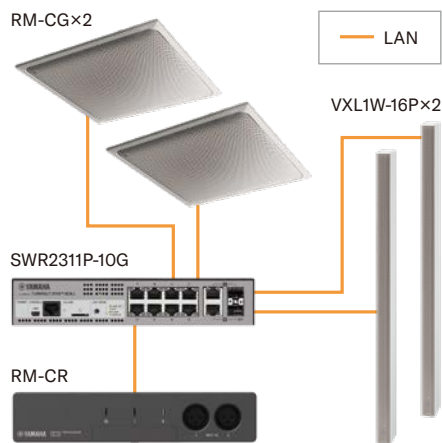
選定のポイント

「ADECIA」を導入したのは、東京事業所に6つある会議室の1つです。オフィスで一番大きい会議室で、定員は16名です。他の会議室は机を固定して使う想定なので机上の据え置き型マイクを使っていますが、ここは会議やセミナーなど用途に応じて机のレイアウトを自由に換えられるようにしたいと考え、天井設置型のマイクにしようと思っていました。そこで実際にヤマハの箱崎のオフィスにお邪魔してテストや視聴をさせていただき、これはいいと判断して導入しました。それまで使っていたヤマハの卓上用マイクスピーカーシステム「YVC-1000」が音の良さや使いやすさで評価が高く、その実績も考慮しました。

導入後の効果

非常に音がクリアで、しかもコンパクトなデザインが良いと思います。机の上にマイクを置かなくていいし、配線も表に見えないので非常にすっきりとした状態で遠隔会議が行えます。今まではマイクの近くに座る人が書類をめくるバサバサ音を拾ったり、マイクから遠い人の声が小さくなるので会議中にマイクの場所を変えたりしていましたが、天井設置で適度に距離があることやマイク内蔵のノイズリダクション機能、オートゲインコントロール機能のおかげでそういった心配もいなくなりました。その一方で、部屋のどこにいてもきちんと声が拾えますし、小声もちゃんと相手に届いています。

コロナ禍以前も一部電話会議がありましたが、声だけでどうしても細かいニュアンスが伝わりにくかったこともありました。その点「ADECIA」であれば遠隔会議でもマイクの存在をほとんど意識することなく話せますし、相手の声も良く聴こえるということで、あたかもリアルで対面している感覚で打ち合わせができるようになりました。これも「ADECIA」のおかげです。





一般社団法人 日本取締役協会

導入機種	ADECIA (RM-CG、MRX7-D、SWR2100P-10G、PA2120、VXC3FW)		
導入時期	2021年6月	使用Web会議アプリケーション	Microsoft Teams/Zoom
基本構成・使用環境	会議やセミナー、トレーニングプログラムを行うボードルームにて使用。		

全国規模への活動拡大に伴うWeb会議の需要に対応し導入以前に比べて、参加者の大幅増加を実現。

導入の背景

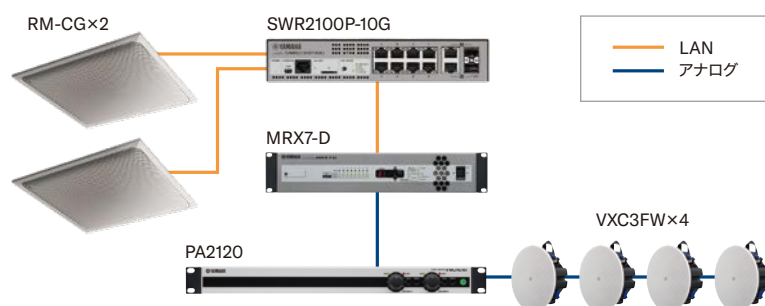
日本取締役協会は、日本企業のさらなる成長のために上場企業の経営者を中心に発足しました。当協会が遠隔会議システム「ADECIA」を導入した理由は3つあります。まず1つはコロナ禍です。密を避けるために1カ所に集まることが難しくなり、我々職員も出社できないという想定外の状況下で急速にWeb会議の活用が広がりました。続いて、協会の活動が全国規模になってきたこと。これはコロナ禍以前から抱えていた問題で、会員が全国に拡大していき、関東圏以外の会員が会議のために東京に来たり、我々が地方でセミナーや勉強会などを開催する機会が増え、その限界を迎えていました。最後は当時入居していたビルの取り壊しが決まり、オフィスを移転する必要が生じたことで、このタイミングでの導入に踏み切ったのです。

導入後の効果

まず遠隔会議の準備が楽になりました。以前は、いろいろな機材を持ち込む必要があっただけでなく、机の下にもぐって線をつなげるなど大変な騒ぎで、まるでその都度電気工事を行うかのように準備をしていました。それが今ではスイッチを入れるだけですぐに使え、とても便利です。また音声も非常にクリアです。以前はマイクの近くに行かないと声が拾えませんでした。ですから机の真ん中にマイクを置くと、部屋の端の人の声はなかなか伝わらなかったのです。でも「ADECIA」では机の一番端にいる人の声も直に聞いているように伝わるので、非常に評判がいいです。あまりに自然で、マイクやスピーカーの存在を認識していない方も多かもしれません。リモート参加をする方も大きく増えました。この会議室は、壁際に椅子を置いて座っても50人が限度。ところが「ADECIA」でリモート参加が可能になったことで、会議室の20名に加えてリモート参加者が100名以上、ということが起きるようになりました。トレーニングプログラムの参加者も1.5倍から2倍に増えました。コロナ禍がきっかけとなって導入した遠隔会議システムですが、ポストコロナ時代になっても積極的に活用し、より多くの方に向けてコーポレートガバナンスの重要性の普及・啓蒙を行っていこうと思っています。

選定のポイント

Web会議を円滑に行いたいというのはもちろんですが、できれば机の上をすっきりさせたいという要望がありました。そこで株式会社光和さんにご提案いただいたのがヤマハの「ADECIA」です。「RM-CG」は天井設置なので見た目がすっきりしますし、話者を自動的に追跡するマルチビームトラッキングの機能などが当協会の希望にマッチしていました。さらに通常の会議やセミナーでのハンドマイクの拡声に加え、パソコンの音声やブルーレイの音声など、さまざまな入力ソースの拡声を行いたかったので、柔軟なシステム構成が可能なシグナルプロセッサ「MRX7-D」を導入しました。シーリングスピーカー「VXC3FW」については、奥行きが非常に短いために空調のダクトなどとも干渉せず、最適な場所に取り付けできるということで選択しました。





東京大学 教養学部・大学院総合文化研究科

導入機種 YVC-1000 / 40台

導入時期 2020年8月、2021年3月

使用Web会議
アプリケーション

基本構成・
使用環境 対面参加とリモート参加が混在するハイフレックス授業にてYVC-1000を導入。YVC-1000に教員用ハンドマイクを接続し、学生数と教室の広さに応じてマイクを追加。

YVC-1000など独自の“ハイフレックス授業パッケージ”で2020年秋学期からの対面授業一部再開を実現。

導入の背景

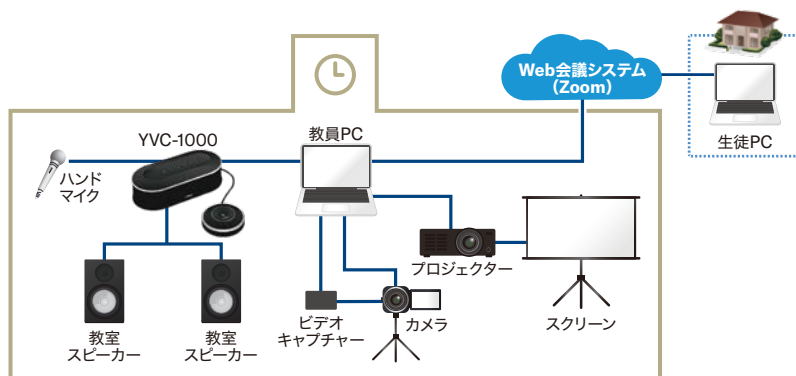
駒場1キャンパスに、1・2年生全員（約6,600名）のほか、3・4年生（約500名）、大学院生・研究生（約1,300名）が集い学ぶ東京大学 教養学部・総合文化研究科。コロナ対策による100%オンライン授業から、対面授業を一部再開するに当たり、対面参加とリモート参加の両方に対応するハイフレックス授業への対応が必要になりました。ハイフレックス授業では、リモート参加の学生に疎外感を感じさせることなく、同じ質（情報量）の授業を提供することが求められます。視覚情報については、教室内の学生たちや教員のカメラ画像をリモート参加のPCに映しつつ、板書を排しスライド資料を共有することでクリアしましたが、問題は、教員とリモート参加の学生、あるいは、対面参加とリモート参加の学生同士の音声コミュニケーションをいかにスムーズに実現するかでした。

選定のポイント

たとえば語学のハイフレックス授業は1クラス20～40人（うち数名がリモート参加）で、教員による講義のほか、学生による発音練習、学生同士の会話練習などで構成されます。このため、教室内の教員や学生とリモート参加の学生の間で差が生じないように、十分な音量とクリアな音声を実現する必要があります。そこで教授会でYVC-1000を使用したところ好感触だったため、対面授業の一部再開後に、YVC-1000をハイフレックス授業の機材候補として本格的に試用。その結果、既存の音響設備との干渉によるハウリングなどもなく、音質の良さも十分実感できたことから、YVC-1000 25台の導入を決めました。教員用のハンドマイク（YVC-1000のAudio-INに接続して使用）やWebカメラ、ケーブル類などをバッグに詰めた“ハイフレックス授業パッケージ”を25セット準備し、これを都度教室に持ち込んで利用しています。

導入後の効果

機器の扱いに不慣れな教員でもセッティングや操作が容易であることに加え、PCはもちろん、教員用ハンドマイクや教室内の既存音響設備との接続性の高さでもYVC-1000が活躍しています。2021年3月には“ハイフレックス授業パッケージ”の運用に余裕をもたせるためにYVC-1000×15台を追加導入。教室内に設けられたマイク入力ポートとYVC-1000の外部スピーカーポートを接続することで、既存の音響設備を利用できることが確認できた約30教室のうち、ハイフレックス授業が毎週行われる7つの教室にはYVC-1000を常備し組み合わせて利用することに。その他の教室については、引き続き都度“ハイフレックス授業パッケージ”を持ち込んで利用しています。また、YVC-1000は専用の収音マイクを最大5台まで増設できることから、学生数や教室の広さに応じ臨機応変に収音マイクを追加することで、教室内の人の間のディスタンスを確保しながら隔々まで集音しリモート参加の学生にクリアな音声を届けています。





株式会社丸ノ内ホテル

導入機種 YVC-1000／1台、YVC-MIC1000EX／4台

導入時期 2021年11月

使用Web会議
アプリケーション

Microsoft Teams／Zoom等

基本構成・
使用環境 8m×7mほどの会議室からオンライン会議を行うために
YVC-1000とYVC-MIC1000EX 4台を使用。

ホテル施設内の多目的貸会議室へ設置。 “だったら音声は大丈夫だね”と利用者にも安心感をお届け！

導入の背景

当ホテルでは9階に多目的貸会議室を設け、東京駅前という立地の良さと、ホテルならではの質を売りに各種講演会・Webミーティング等で多くのお客さまにご利用いただいております。特にコロナ禍以降は、Webミーティングの需要が増加し、マイクスピーカーシステムの重要性が日増しに高まっていました。そこで、間隔を空けたレイアウトや、アクリル板等を使用した状況下においても安定した収音ができることを必須条件として、新たな製品の導入検討を始めました。従来は他メーカーのモデルを利用していたため、そのメーカーの上位モデルとYVC-1000を候補として選定し、デモ機での評価試験を経て、最終決定することになりました。

導入後の効果

本製品導入後は、音声品質についてお褒めの言葉をいただくことが多くなりました。常設している会議室専用のインターネット回線と合わせてご利用いただくことで、完璧な環境をご提供できていると自負しております。また、自社で既に使われているケースも多いのか、本システムをお客さまへ紹介する際に、“ヤマハのマイクがたくさん繋げられるもの”というだけでお客さまへの説明が済むことが多くなりました。その際、“だったら音声は大丈夫だね”と皆さま口を揃えておっしゃられるのは、本製品の信頼性の高さの証とっております。会場の広さと比較すると多めにマイクを使っておりますが、話者が複数いらっしゃる場合それぞれの目の前にマイクを設置できるため、主催者さまの心理的負担を軽減することができることも大きな成果と言えます。今までは、会場に求められる必須の設備を何うと、専用のインターネット回線のみを挙げられることがほとんどでした。しかし今後はハウリングの防止等、会議の円滑な進行のために、このYVC-1000についてもご利用を強くお勧めしていきたいと思っています。

選定のポイント

機能面において、本製品に勝るものがなかったのが率直な選定理由です。離れている場所の方へ話者が変わってもスムーズに音を拾い続け、レコーディングの音声を確認すると、まるで真横で話しているかのように感じました。また、有線と無線の接続インターフェースが選べることも、私共には大きなメリットでした。多目的貸会議室は利用される方のお持ちになる機器が異なるため、接続方法が選べることは利便性に直結するからです。また、デザインのスマートさも重要です。当ホテルは会場の雰囲気重視してお選びいただくことも多く、機能美に徹した本機のデザインは、会場の一部として常設しておきたいと思わせてくれるものでした。





ジェフユナイテッド市原・千葉

導入機種 YVC-200/2台

導入時期 2021年12月

使用Web会議
アプリケーション

Google Meet/
Microsoft Teams/Zoom

基本構成・
使用環境 主に、所属選手の取材対応や試合後の会見で、ジェフユナイテッド市原・千葉(Jリーグ)とジェフユナイテッド市原・千葉レディース(WEリーグ)で1台ずつ使用。

オンライン取材や会見で重要視されるクリアな音質を完全に解決！簡単設置でスムーズな運用・進行を実現。

導入の背景

主に所属する選手の取材対応や、試合後の会見などで使用するため、クリアで快適な音質が必須です。しかし、これまで使用していたものは、音声を拾う側は目の前の範囲の声しか拾えず、近寄ると密が発生し、通訳や記者など複数が参加する際には声を拾い切れないといった課題が生じていました。また、あるPCメーカーとの相性が悪く、音が出なくなるなどのトラブルも多く、途中で中断することができない会見をスムーズに進行する上で音質や性能の改善が急務でした。

導入後の効果

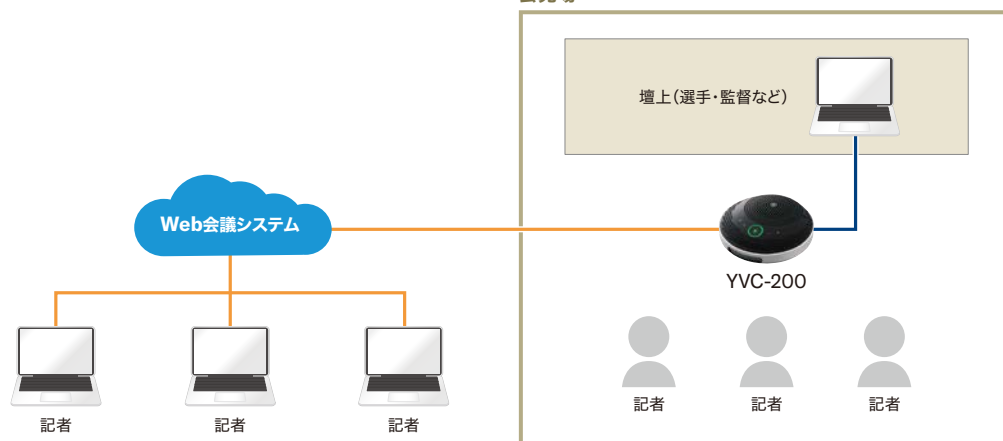
会見では、音質の良さは必須条件なので、その点は完全に解決できました。初めて参加された方からは「館内のスピーカー？」と勘違いされるほどクリアになりました。また、PC等の機器とはUSBの接続で簡単に設置が可能で、会見の運営・進行も、とてもスムーズです。
新型コロナウイルスの感染状況に応じて、リアルでの参加とZoom等のオンライン参加のハイブリッドで実施する記者会見や会議も行っています。YVC-200は広範囲の声をしっかり拾って、雑音も除去してくれますので、オンライン会見や会議のストレスは各段に減りました。

選定のポイント

機能面では、360°全方向からの收音で、話し手の選手と聞き手の記者両方面の音をしっかり拾ってくれて、音質もクリアな点を評価しました。また、他社メーカーには類似品で安価なものが多数ありましたが性能面で不満なものも多く、機能と価格のバランスを考慮すれば、本機の30,000円という価格は非常にお手頃だと感じます。直径15cm弱、高さ4cm程度というサイズ、安定性の高い形状も好印象でした。ミュートがワンタッチで解除できるのも使い勝手がいいですね。



会見場





浜松市役所

導入機種 YVC-300/2台、YVC-330/3台、YVC-1000/21台

導入時期 2019年6月、2021年7月

使用Web会議アプリケーション -

基本構成・使用環境 企画調整部情報政策課にて、YVC-300(2台)を導入。その後、デジタル・スマートシティ推進事業本部にて、YVC-1000(21台)/YVC-330(3台)を追加導入。

コロナ禍での非接触型コミュニケーション強化に向け主要施設の会議室にYVCシリーズを導入しWeb会議環境を整備。

導入の背景

2019年10月の「デジタル・ファースト宣言」に先立ち、自治体業務の効率化に向けてリモートワーク/テレワークの推進を検討していた浜松市。同年6月には、主要施設へのタブレット端末+Web会議ツール配備とあわせ、デジタル・スマートシティ推進事業本部にYVC-300(2台)をトライアル導入し、現場のニーズや活用シナリオといった、フィジビリティ・スタディを開始しました。

この際に、Web会議ツール(Zoom)のライセンスを購入したりセラーからも、推奨モデルとしてヤマハのマイクスピーカー製品を勧められ、デモンストレーションによる品質確認を行った上で、あわせて導入することを決定しました。

導入後の効果

区政を数く浜松市では、本庁と各区役所、消防局や保健所、教育委員会などの出先機関との会議のほか、市内の業者との打ち合わせ、広く市民を対象としたセミナーなど、年間2,200近くの会議やイベントを開催しています。このうち、庁外との会議についてはほぼWeb会議に移行済みで、庁内の会議についてもWeb会議化が進んでいます。Web会議ではタブレット端末をYVCシリーズにBluetooth接続して利用していますが、Web会議開催に向けたマニュアルを独自に整備していることもあり、接続や操作に関する問合せは少なく、音声品質についてのトラブルやクレームの報告もないといいます。

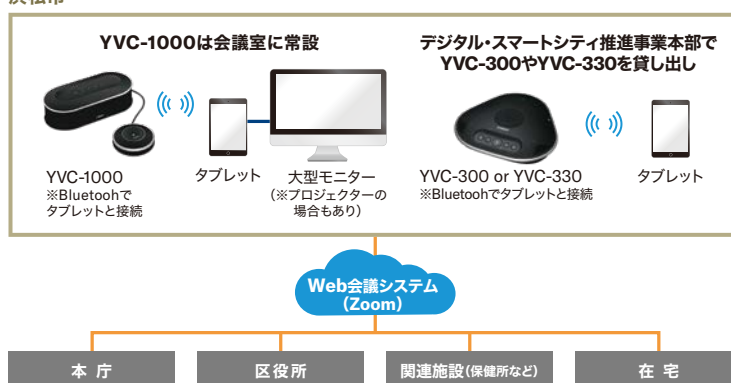
2021年7月にYVC-1000/YVC-330などの機器を追加導入した浜松市ですが、コロナ禍で会議やイベントの数が増加傾向にあり、ニーズに応えていない状況にあります。今後のニューノーマルを見据えつつ、Web会議による業務効率化で生み出されるリソースで住民サービスの拡充を目指すためにも、さらなる環境整備を検討する考えです。

選定のポイント

当初、トライアルでの利用は思ったほど伸びませんでしたが、2020年以降のコロナ禍で状況が一変。庁内・外問わず日常業務において3密回避が推奨され、各施設に分散出勤して業務にあたるなどの対策を進めたこともあって、非接触型での会議実施ニーズが急速に高まる事態となりました。小規模でのトライアル用に導入していた機材では到底まかないきれず、急速2020年7月に、Web会議用の大型ディスプレイのほか、YVC-1000/YVC-330やタブレット端末などを主要施設の会議室に追加導入しました。比較的大きな会議室に固定設置するYVC-1000(21台)に対し、YVC-300(2台)/YVC-330(3台)は小会議室への設置や機器単体で貸し出す運用をしています。



浜松市





株式会社八神製作所

導入機種 YVC-330／50台、YVC-200／88台

導入時期 2020年10月、2021年6月

使用Web会議アプリケーション

基本構成・使用環境 拠点(全42箇所)の会議室にYVC-330を設置し、社内外とのオンライン打ち合わせに使用。また営業部隊でYVC-200を追加導入し、医師等を招いたハイブリッド型Web会議で利用。

事業の根幹を支える営業部隊にYVC-200・YVC-330を導入し、ニューノーマル対応の新たな情報共有の形を模索。

導入の背景

明治4年に創業、150年の歴史を誇る株式会社八神製作所。医療機関への医療機器や設備の販売・レンタルを主とする医療保険関連事業をはじめ、福祉・介護に関する幅広い事業を展開。中部地区および首都圏の営業拠点(全39箇所)には約600名の営業部隊を擁し、医師と医療機器メーカー各社をつなぐ情報ハブの役割を担っています。コロナ禍以降、これらのコミュニケーションは順次Web会議に移行しましたが、ノートPCを使ったWeb会議は、PC内蔵マイクの收音能力が低く、特に参加人数が多くなると双方の音声聞き取りにくい状況になり、改善が急務でした。そこでWeb会議の音声品質向上に向けて、営業所の会議室にYVC-330を導入することにしました。

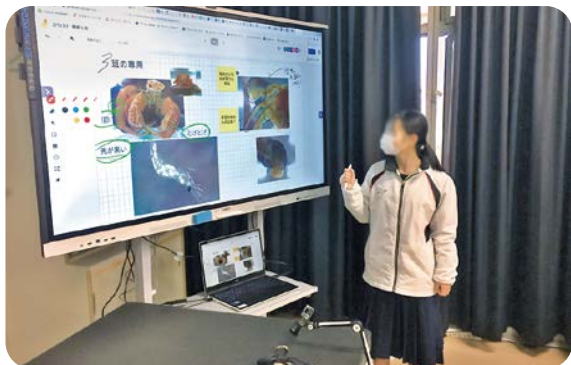
選定のポイント

ヤマハ製品を選定した理由は、親会社／持株会社であるセイエイ・エル・サンテ ホールディング株式会社(以下、セイエイ)での成功体験にありました。セイエイでは、グループ各社の経営層(約20名)を大会議室に集め定期的にグループ全体の会議を開催していますが、大会議室にYVC-1000を導入したところ音声品質が劇的に改善。それまでは発言が聞き取れないなどのクレームが多く寄せられていましたが、それらが一切なくなったのです。当社でも、Web会議を通じてこの成功体験を共有していたこと、さらに出張コスト削減や無駄な移動時間の排除といった副次的な効果も実感していたことから、主要拠点の会議室へのYVC-330(50台)の導入がスムーズに決まりました。

導入後の効果

2021年6月、拠点の会議室へのYVC-330導入に続き、営業の最前線にYVC-200(88台)を追加導入しました。以前、当社の営業担当は医師に最新機器の機能を紹介・説明するため、医療機器メーカーの担当などと一緒に頻繁に医療機関を訪問していました。しかしコロナ禍により、できるだけ頻度や訪問人数を少なくする必要に迫られたことがその理由です。セキュリティ上、医師が業務PCで外部とのWeb会議に参加することは難しいことから、当社の営業担当がインターネット接続可能なノートPCとYVC-200を持ち込み、医療機器メーカー担当がリモートで参加する形でWeb会議を実施。訪問人数を最小化しつつ、医師・八神製作所・医療機器メーカーの三者による情報共有を継続しています。この活用シナリオにおいては、小型軽量でバッテリー駆動(電源不要)など、YVC-200の優れた可搬性や接続性のメリットが大きな効果を発揮しています。





MIE Fellow 岩田智文教諭

導入機種 YVC-1000

導入時期 2022年2月

使用Web会議
アプリケーション

-

基本構成・
使用環境 Chromebookに、電子黒板/書画カメラ/Webカメラ/YVC-1000(+YVC-MIC1000EX)を接続、理科のオンライン授業を実施。

生徒同士の会話や何気ないつぶやきまで相手に届ける YVC-1000で理想のオンライン授業に一步近づく。

導入の背景

愛知県内の市立中学校で教諭を務めるかたわら、愛知県総合教育センターの協力研究員を兼務してきた岩田智文教諭。オンライン授業の研究にいち早く着手したことで知られる同教諭のWeb授業では、PTZカメラやWebカメラなどビジネスユースの機器を利用していましたが、マイクの收音性能が低い上に外部接続できるマイクの数も少なく、教室内の隅々まで音声を拾うのは難しい状態でした。また生徒は、発表など発言の際にいちいちマイクの前に移動する必要があり、スムーズな授業進行の妨げになっていました。

導入後の効果

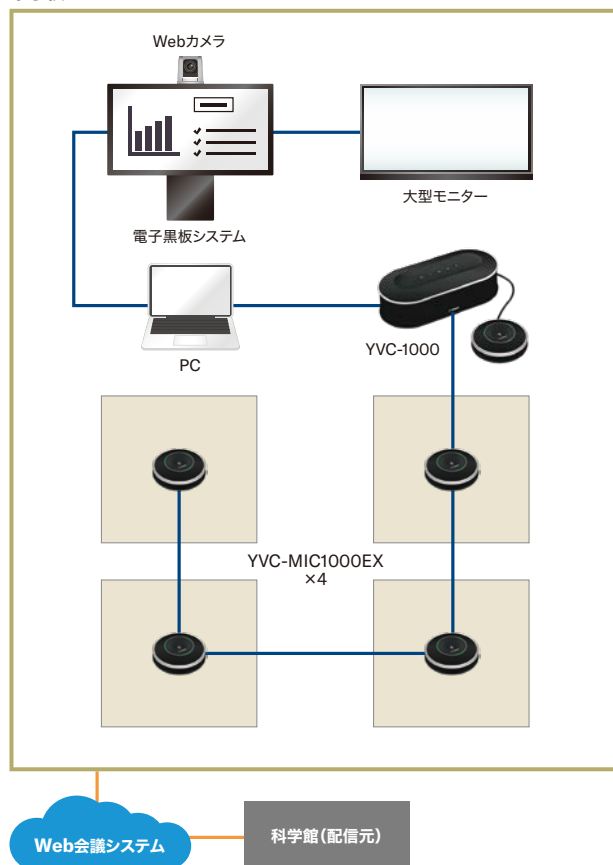
2022年2月には、教室内のChromebookにYVC-1000およびWebカメラや書画カメラを接続し、「宇宙や地球のなりたち」をテーマとした蒲郡市生命の海科学館との第1回連携授業が実施されました。標準のマイクに拡張マイクを追加し、計5台のYVC-1000専用マイクを教室内に配置。デジチェーンでつなぐだけの簡単設置、自動音声調整機能によってエコー対応などの設定不要のメリットを体感いただきました。その後、第2回・第3回と連携授業を重ねる中で、科学館の先生からも「生徒たちのつぶやきまで漏らさず聞き取れ、適宜アドバイスしてあげることができました。その点では実際に教室にいるよりも聞こえたかもしれません」と評価いただきました。生徒はマイクを意識することなく自然な状態で発言・発表でき、スピーカー性能についても、科学館の先生のクリアな音声が教室の隅々まで届き、岩田教諭の追求める理想のオンライン授業に一步近づくことができています。



選定のポイント

授業においては、生徒が1人ずつ発表するシーンだけでなく、実習や観察などを通じた生徒同士の会話や一人一人の何気ないつぶやきなど、生徒たちが真剣に取り組む様子(雰囲気)を相手に伝えることが重要です。より優れたマイク性能の製品を求め情報収集を継続する中、とあるベンダーから「音声品質で選ぶならヤマハのYVC-1000がダントツ」と勧められ、「最大5つまで専用マイクを拡張できる」「マイクは電源不要で接続も簡単」「自動音声調整機能でセッティングも不要」といった拡張性も決め手となって、YVC-1000(+YVC-MIC1000EX)利用が決まりました。

中学校





株式会社サカタ製作所

導入機種 YVC-1000/1台、YVC-MIC1000EX/2台、YVC-330/3台
YVC-300/2台、YVC-200/2台

導入時期 2016年9月頃 **使用Web会議アプリケーション** Microsoft Teams

基本構成・使用環境 本社と東京・大阪の各拠点に展開。参加者10名程度のオンライン会議にはYVC-1000とYVC-MIC1000EX 2台を、4～8名程度の会議ではYVC-200、YVC-300、YVC-330を適宜使用。

Microsoft TeamsとYVCシリーズの導入により、安定した音声通話でのリモート会議を実現。

導入の背景

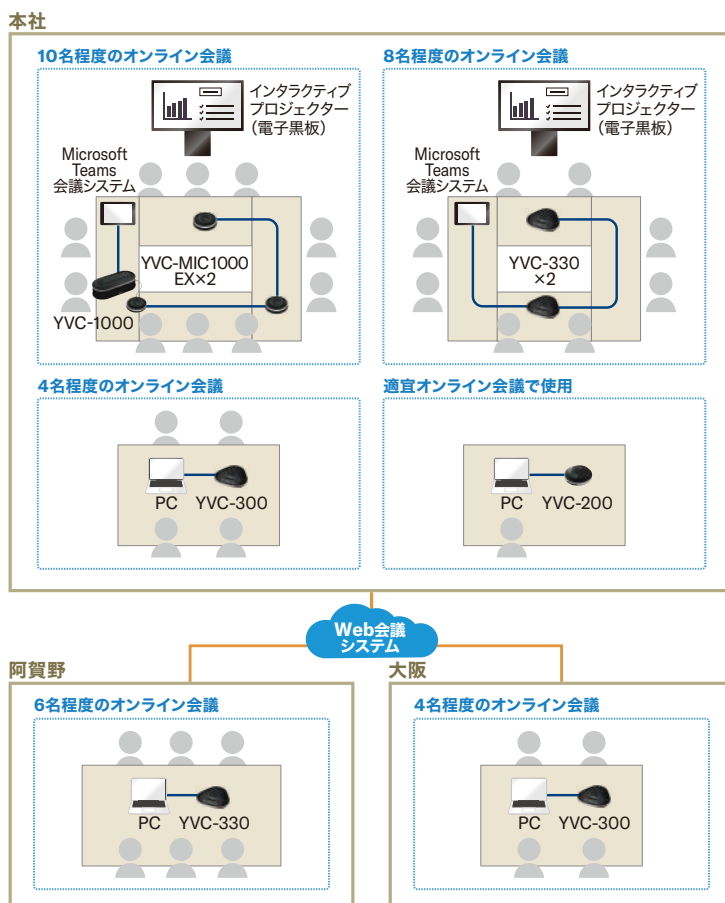
営業部は、本社・東京支店・大阪営業所の3拠点に部員が在籍しており、月に一度の営業部会をいずれかの拠点に集まって開催していました。そこで移動時間と出張経費の削減を目的にMicrosoft Teamsを使ったリモート会議を検討することになり、会議システムを各拠点に1台ずつ導入することになりました。その際、いくつかの会議システム機器のトライアルを行ったのですが、その中で最も安定して音声通話のできたのがYVC-1000とYVC-300だったのです。そこで本社にYVC-1000を、東京支店と大阪営業所にそれぞれYVC-300を設置することにしました。

導入後の効果

会社の方針で新型コロナウイルス感染拡大の前からリモートワークや在宅勤務を進めていたこともあり、社員間のコミュニケーションを確保するため、以前よりリモート会議の要望がありました。Microsoft Teamsとマイクスピーカの導入により、社内でリモート会議を行う頻度が多くなり、少人数であれば会議システムを使わずに、自分のパソコンにYVC-200をつないでリモート会議を行うようになっています。また、新型コロナの感染拡大後は、取引先とMicrosoft Teamsでのリモート会議を行う頻度も多くなりました。毎日何かしのリモート会議が社内で行われていますが、安定した音声通話のおかげで安心して臨むことができます。

選定のポイント

特別な設定なしで使えるところがいいですね。本体とマイクスピーカーをUSBで接続するだけで利用でき、また安定してリモート会議で通話ができるので、安心して利用しています。実は、比較のために他メーカー製のマイクスピーカーも使用してみたのですが、本体側でうまく認識されず、ドライバーの入れ直しや会議システム自体の再インストールといった手間がかかったことがありました。ヤマハ製品では、一度もそのようなことはありません。また、マイクスピーカーのボタンにアイコンがプリントされており、感覚的に操作ができるのもありがたいです。





京都府教育委員会

導入機種 YVC-1000／8台、YVC-MIC1000EX／32台

導入時期 2019年3月

使用Web会議アプリケーション

基本構成・使用環境 YVC-1000と拡張マイクYVC-MIC1000EXのセットを、遠隔授業システムや電子黒板と組み合わせ、宮津天橋高校と丹後緑風高校の計4学舎8教室に導入。

遠隔授業システム、電子黒板と併せてYVC-1000を導入。 新しい学びの場「学舎」を取り入れた高校再編を実現。

導入の背景

令和2年4月1日、京都府北部丹後地域の急激な生徒数の減少に対応するべく、宮津高校と加悦谷高校は宮津天橋高校に、網野高校と久美浜高校は丹後緑風高校に再編されました。ただし通学の負担等を考慮して、4高校の校舎は、再編後の2高校の「学舎」として地域に残し、少ない教員でカリキュラムの充実を目指すため、ICTを活用した単位認定を行う遠隔合同授業を導入することになりました。先立つ準備として、大阪教育大学の研究室に、宮津高校と網野高校からICT担当教員を1年間研修派遣し、現場におけるICT活用の推進者として遠隔授業に関するノウハウを学びつつ、教育委員会主導で必要なシステムや機器の選定・導入を進めました。

選定のポイント

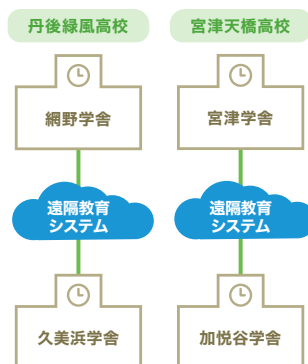
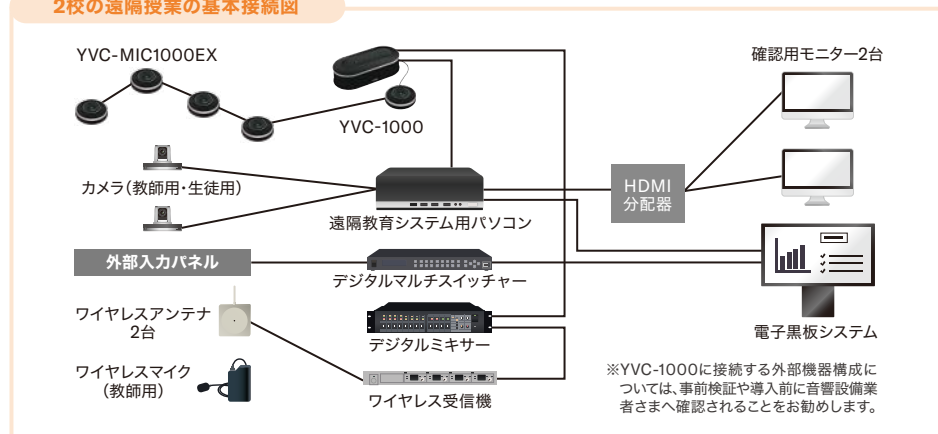
研修派遣中の先生も加わって赴いた、高知県の先進地見学。先生が教室で電子黒板を使って行う授業をライブ配信し、生徒は別の場所でその授業を視聴する方式でしたが、そこで使用されていたのがヤマハのスピーカーフォンでした。その後、教育関係者向けに開催された展示会イベントのヤマハブースで製品に触れ、説明を聞いたところ、広い教室にも対応できるマイクの拡張性や、高いICTスキルを必要としないシンプルな操作性など、希望通りの性能等を確認。最終的には、電子黒板やスピーカーフォンも含む、遠隔合同授業に必要なソリューション提案を求めて入札を実施し、スピーカーフォンにYVC-1000を採用したベンダーの提案を選びました。

導入後の効果

平成31年3月、4学舎各2教室（全8教室）に、遠隔授業システムや電子黒板と併せてYVC-1000（1台）と拡張マイクYVC-MIC1000EX（4台追加）のセットを導入。令和3年4月からの遠隔合同授業開始に向けた、先生方のトレーニングやトライアルが始まりました。各教室に5つ設置されたマイクで生徒の声を拾いつつ、先生はピンマイクを併用。YVC-1000の大音量スピーカーが実現する双方向でのクリアな音声によって、一体感のある遠隔合同授業の形が見えてきています。またYVC-1000/YVC-MIC1000EXを含む今回のシステムは、令和2年のコロナ禍ですべての学校が臨時休業を余儀なくされる中、Web会議ツールを利用した学習支援やオンライン朝会などのクラス運営でも活用され、「学びを止めない」ために大いに役立ちました。



2校の遠隔授業の基本接続図





京都大学 基礎物理学研究所

導入機種 ADECIA (RM-CG、RM-CR、SWR2311P-10G、VXL1W-16P)

導入時期 2021年4月

使用Web会議
アプリケーション

Zoom

基本構成・
使用環境 教室で机を円形に並べた会議や、席を全て前向きに配置したセミナーや勉強会など自由に机が動かせる環境で使用。

国際的に高まるハイブリッド型遠隔会議のニーズに応え 共同研究拠点としての機能を大幅に強化。

導入の背景

湯川秀樹博士のノーベル賞受賞を記念して創設された京都大学基礎物理学研究所は、素粒子理論、原子核理論、理論宇宙物理学、物性理論、量子情報という理論物理学の5つの分野をカバーする基礎物理の研究所です。日本初の全国共同利用研究所でもあり、大学や研究機関の枠を越えて全国の研究者に利用されています。さらに最近では国際的な共同研究所を目指し滞在型プログラムも行っています。共同利用研究所としては、研究会の開催や海外から研究者を集めて国際会議を行うことが中心的な事業でしたが、コロナ渦でリモート会議が中心となりました。そのうち、研究者が個別にZoomで参加するより、何人かはリアル場に集まり、何人かがリモート参加するハイブリッド型がやりやすいということになり、それを実現するための機材を求めています。

導入後の効果

リモート会議に使われる部屋はいろいろな用途で使われていて、たとえば会議なら机を円形に並べますし、セミナーや勉強会のときは黒板に向けて席を全て前向きにするなど、机のレイアウトが変わります。以前は机移動のたびにマイクを設置し直していましたが、「ADECIA」は天井に設置してあるので、自由に机が動かせますし、電源を入れればすぐにリモート会議ができるのでとても助かっています。

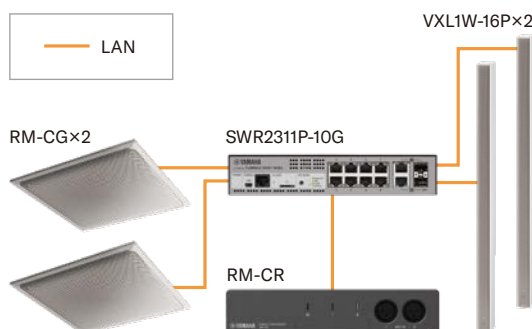
性能については概ね期待通りで、音声がかいかに配信できます。マイクのカバーエリア外で小声だったりすると厳しい面はありますが、ちょっと声を張れば拾ってくれます。部屋のどこで話していてもクリアに音声が聞こえるようになったことが、「ADECIA」導入における一番の成果だと思っています。配信先から「聞こえませんでした」と言われることも少なくなった気がしますね。

設置に関しても、今回導入したシーリングアレイマイクロフォン「RM-CG」は、市販されているシーリングマイクの中では一回り小さく、またラインアレイスピーカー「VXL1W-16P」もスリムで施工性が高く、黒板などの両脇にすっきり収まる点が特にいいですね。

「ADECIA」はパッケージ製品ですが、他の機材も比較的自由に追加できるので、私たちの要望にきめ細かく応えていただけた点も満足しています。

選定のポイント

従来のリモート会議は、国際会議にも使われる140名収容の広いホールを使っていたこともあり、ハンドマイクを代わる代わる持って話すスタイル。コロナ禍となってマイクを渡すたびに消毒する必要があり、大変煩雑でした。加えてハイブリッド会議を行う機会も増えたため、「ADECIA」導入以前から、20～60名収容の会議室では同じヤマハのスピーカーフォン「YVC-1000」を3～4台組み合わせて利用していたんです。この「YVC-1000」を使ったリモート会議は、会話がしやすくなって好評だったのですが、今度は毎回設置が必要であることが気になってきました。そこで「ヤマハ製品で、マイクを天井設置できるもの」を探し、ネットで見つけたのが「ADECIA」だったんです。教授をはじめスタッフでデモ動画を確認し、ほぼ一目惚れで導入に至りました。





株式会社ハートス

導入機種 YVC-1000／2台、YVC-MIC1000EX／2台

導入時期 2017年9月 使用Web会議アプリケーション Cisco Webex

基本構成・使用環境 7m×3.6mほどの会議室で、YVC-1000とYVC-MIC1000EX（1台～2台）を使用。各営業所と結ぶオンライン朝礼では、YVC-1000とYVC-MIC1000EXを組み合わせる。

前機種のPJPシリーズ時代からの安定感に加え、性能面でも大幅に改善されたことによりあらゆる社内会議での利用が可能。

導入の背景

最初にWeb会議システムを導入した2012年以来、マイクスピーカーシステムとしてヤマハのPJP-50USBやPJP-20URを使用してきました。2018年に本社のマイクスピーカーを更新することになり、新たに導入したのがYVC-1000×1台と、追加マイクとしてYVC-MIC1000EX×2台の計3台です。それに加え、当時導入していたWeb会議システムで推奨されていたこと、カスケード（子機増設）が従来製品より容易となり音質も向上していたことから、導入を決定しました。現在、会議システムは別製品に変わりましたが、ヤマハのマイクスピーカーシステムは現役です。

選定のポイント

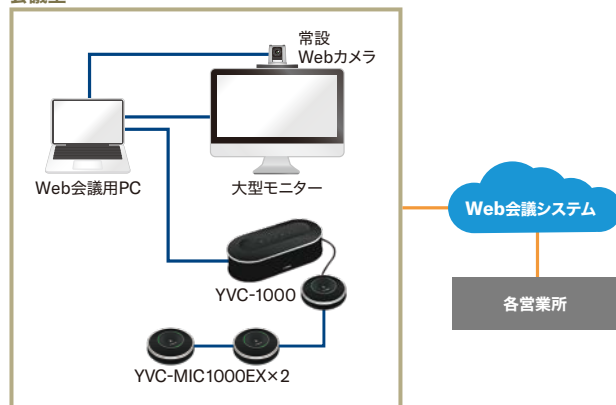
製品選択の一番のポイントとなったのは、弊社で利用している多くのヤマハ製品が、トラブルや故障がほとんどなく、安定利用できているという信頼性の高さです。その上で、この製品の拡張性が高さ、増設マイクや外部スピーカーの使用により社内の会議室全てで利用可能になる点が、導入を後押ししました。ルーターなどのIT関連機器も含めて、ヤマハは安心して利用できる製品を提供していただけるメーカーであると認識していますので、今後もさまざまな機器の選択肢の一つとして考えていきたいと思っています。

導入後の効果

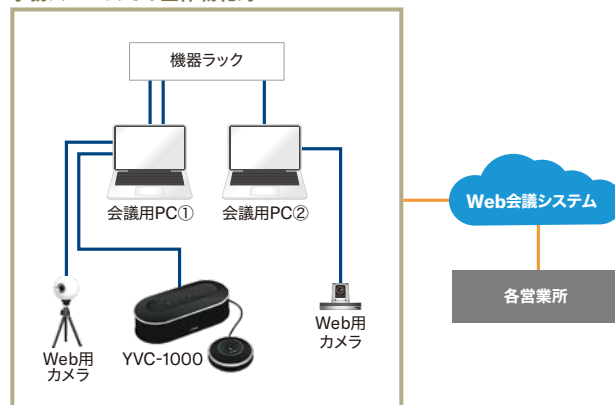
弊社では、この製品を会議室への常設ではなく、会議の都度セッティングを行うようにしています。例えば朝礼などの場合、本社では約200㎡の執務室にYVC-1000本体とYVC-MIC1000EX×1台を設置し、各営業所からの音声を放送していますが、必要十分な音量で明瞭に聞き取れており、随時のセッティングでも問題はありません。すでに導入していた前機種であるPJP-50USBでは音割れギリギリまで音量を上げて使用しても、耳を澄ましてやっと聞き取れる状態でしたが、このYVC-1000は音量的にも音質的にもかなり改善されたと感じています。また収音性能も高く、発表者から2m程度離れた場所にマイクを設置した場合でも、しっかりと音を拾ってくれます。今後は外部入力へのマイク接続で、より明瞭な音声を各営業所に配信できるように試してみるつもりです。



会議室



事務スペースでの全体朝礼時





泉南市立一丘中学校

導入機種 YVC-1000/1台

導入時期 2021年12月

使用Web会議
アプリケーション

Google Meet/Zoom

基本構成・
使用環境 7m×9mの教室で、参加人数が36名程度のオンライン集会
を行うためにYVC-1000 1台を使用。

YVC-1000との出会いで始業式、終業式、 集会や授業のオンライン化に活路を見いだす！

導入の背景

新型コロナウイルスの影響によって教育現場は大きく変わり、体育館で行うことが当たり前だった始業式や終業式、学年集会の実施が困難になりました。当初は、校内放送で集会などを実施していましたが、生徒からの評判はあまり芳しくありませんでした。そこでGoogle MeetやZoomを使用して、校長室などの特別教室と各学年の教室をつなぐオンライン集会を実施したものの、こちらも音量が小さい、音声が聞き取りにくい、ノイズが発生するといった問題が発生し、一般スピーカーの限界に直面することに。オンラインであっても質を高められる音響機器の導入が急務でした。

導入後の効果

2021年12月、3年生の社会科の授業で地方自治に関するプレゼンを班ごとに行いました。全生徒が参加したのですが、事情があって教室に入らず、別室登校を続けている生徒は、そのままでは参加できないという状況になっていました。そこで、そのような生徒にも自分のクラスの生徒がどのようなプレゼンをしているか見てもらうため、授業の教室と別室登校の生徒がいる特別教室とをZoomでつなげることにしたのです。別室登校の生徒の反応も良く、別室ではありましたが、授業に参加できたことを喜んでいました。

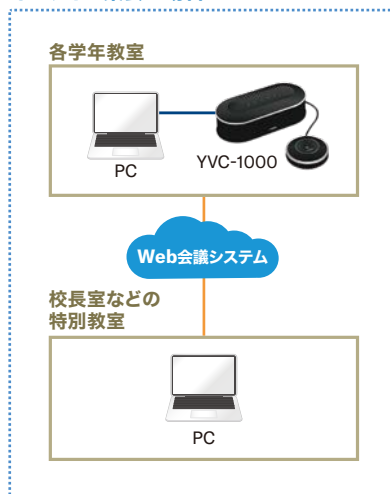
また、スピーカーの音質が良いので、授業中に動画を使用する際、生徒の集中力が高まっているように感じています（他社製品のスピーカーは音質が悪かったり、音量が小さかったり、かといって音量を上げすぎると音声が割れてしまったりといった問題点が生じていました）。今後は、集会だけでなく、通常の授業でもオンラインを活用することで、一人一人にあった学習を提供していきたいと考えています。

選定のポイント

もう生徒たちが二度と残念な気持ちにならないように——。そう願いながら音質の良いスピーカーを探していたときに出会ったのが、ヤマハのYVC-1000です。ちょうど学校現場で使用している事例がWebサイトで紹介されていたこともあり、その高い評価から、本校でもぜひとも取り入れたいと感じました。また、YVC-1000はBluetooth接続も可能なため、スマートフォンやタブレットと接続することで、授業での活用の幅が広がると感じました。このようにオンライン集会の質や授業の質を高められると確信したことが、ヤマハ製品の選んだ主なポイントです。



オンライン集会の場合



オンライン授業の場合





兵庫県信用農業協同組合連合会

導入機種 YVC-1000/3台、YVC-330/3台

導入時期 2020年11月

使用Web会議
アプリケーション

Cisco Webex

基本構成・
使用環境 対面とオンライン参加が混在するハイブリッド形式の研修会にYVC-1000を使用。各拠点をつんだオンラインでの会議や研修動画の作成等にYVC-1000、YVC-330を使用。

対面とオンラインのハイブリッド形式の研修会をはじめ、会場や人数に応じたさまざまな形式での会議が実施可能に！

導入の背景

当会は、JAグループにおける信用事業を行う都道府県段階の連合会組織として、兵庫県内JAの職員向け研修等の事業運営をサポートしています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会を順次オンライン形式に切り替えていましたが、既存のタブレットやPC内蔵マイクでは、講師の音声不明瞭だったりハウリングが起きたりと、大きな課題を抱えていました。

導入後の効果

YVC-330はオンライン形式の研修会に、YVC-1000はハンドマイクが活用できることから対面とオンラインのハイブリッド形式の研修会に活用しています。各拠点や他社とのオンライン会議では、参加人数に応じてYVC-330、YVC-1000を使い分けています。また、社内会議においても参加者の密集を避けるため、参加者ごとに拡張マイクを接続し使用しています。同製品の導入により、会場や人数などに応じて、さまざまな形式でのWeb会議やオンライン研修会を実施できるようになりました。導入後は、研修受講者から音声に関する苦情や改善要求が届くこともなくなり、スムーズな運営ができています。

選定のポイント

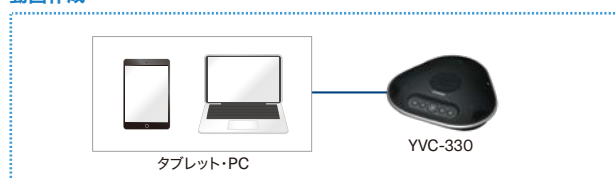
まず、YVC-330を試験的に導入して他社製品と比較したのですが、非常に簡単に接続でき、かつ性能についても十分満足するものだったことから導入を決定しました。次いで、オンラインと対面のハイブリッド形式にも対応できるよう、YVC-1000を導入。高い音声認識性能に加えてハンドマイクにより大人数で使える点が主な選定理由です。ヤマハの安心感もポイントでした。



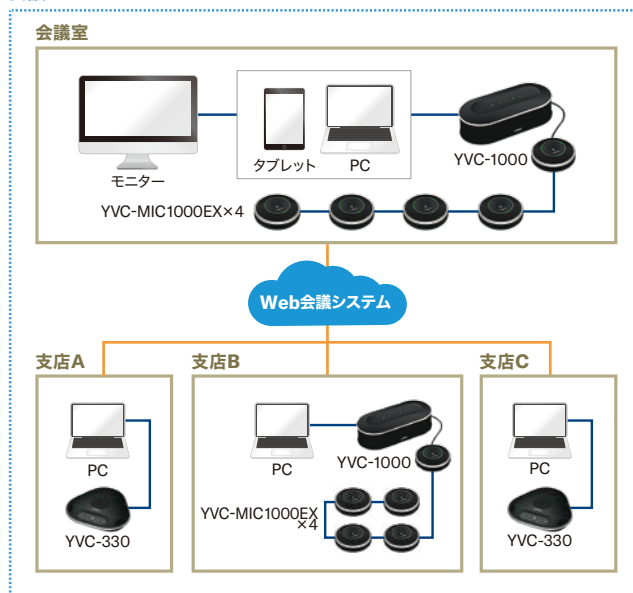
研修会(ハイブリッド形式)



動画作成



会議





一般社団法人 福山市医師会

導入機種 YVC-1000/1台

導入時期 2021年11月

使用Web会議
アプリケーション Zoom

基本構成・
使用環境 16.5m×7.5mほどの会議室からオンラインと併用した会議を行うためにYVC-1000を使用。

音響設備を使わずとも安定した音声品質を確保。 今後は学校授業での活用も検討。

導入の背景

福山市医師会は、医道の高揚、医学知識および医学技術の普及と公衆衛生の向上を図り、市民の健康を増進することを目的とする一般社団法人です。月2回の運営会議をはじめ、年間を通じてさまざまな会議を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴ってオンライン会議主体に。3密を避けるため広い会場を用意することも増え、音声が届きにくいなどの問題が出ていました。

導入後の効果

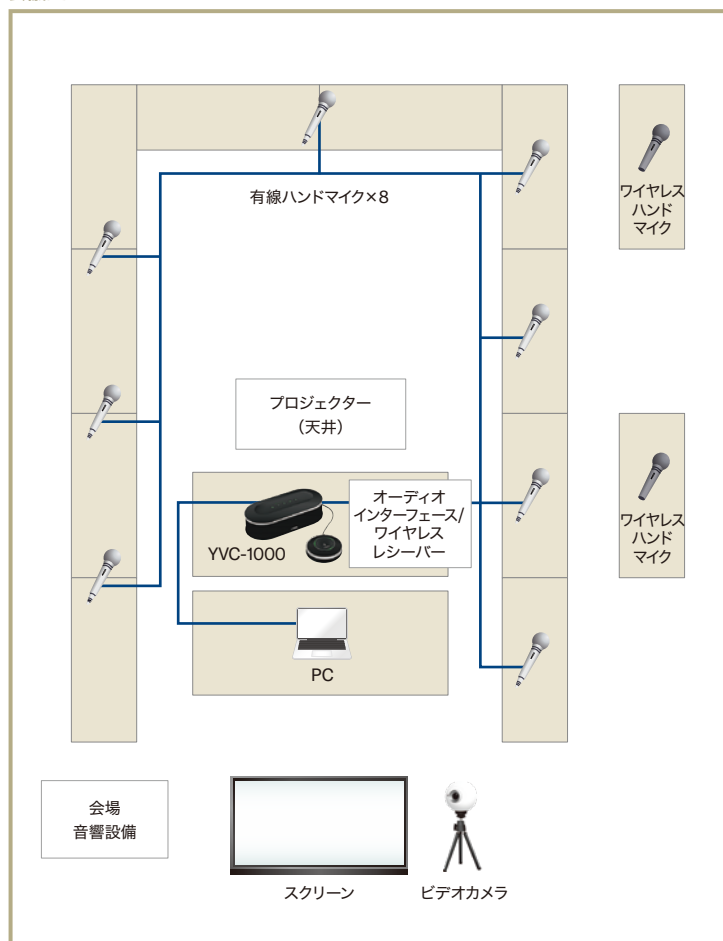
YVC-1000はスピーカーの性能が素晴らしく、会場の音響設備を使わずとも安定した音響を確保することができるようになりました。そのため、オンライン参加・会場参加者ともに、ストレスなく議論をすることが可能となっています。また、以前使用していたWebマイクは複数台設置すると音声の切り替えが不安定で、複数人から同時に発言があった場合に難があったのですが、YVC-1000ではそのようなトラブルもなくなり、小規模の会議や打ち合わせなどでも安定した音声品質を確保できるようになりました。今後、利活用の機会はさらに多くなると考えています。また、当会は看護専門学校も運営しているので、今後は学校授業などでの活用も検討しています。



選定のポイント

このような背景から、オンライン参加・会場参加ともに均一の音声品質を保ちつつ、議論ができる環境の整備が急務となっていました。また、持ち込んだ機器と会場ごとに違う音響設備との接続設定に毎回苦慮していたこともあり、可搬式の音響設備で、導入実績や導入事例が多数掲載されていたヤマハのYVC-1000が活用できるのではないかと考え、デモ機の貸し出しを申し込んだのです。

会議室





公益財団法人 しまね文化振興財団

導入機種 YVC-1000 / 2台

導入時期 2021年5月

使用Web会議
アプリケーション

Cisco Webex /
Microsoft Teams / Zoom

基本構成・
使用環境 大会議室(180名収容)～10名収容の会議室まで、利用の都度貸し出し。

大会議室(180名収容)への接続性および製品性能の検証を経て、高品質・扱いやすさからYVC-1000を導入。

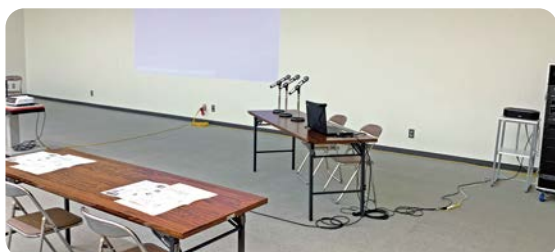
導入の背景

当館は、約1,500名収容可能な大ホール、約550名収容可能な中ホール、その他20の会議室(多目的ホール、展示ホール、大会議室など含む)を持つ、多目的施設です。

2020年2月ごろから、新型コロナウイルス感染症の影響でWeb会議を希望される方が増加し始め、利用者からは、会場から出ている音声をパソコンへ接続する操作、またWeb会議ソフトからの音声出力への対応などのご要望が多く寄せられるようになりました。しかし、既存の設備は接続が煩雑だったり、ホールの大きさや参加人数によって音声品質に難があったりと限界を迎えつつあり、操作が簡単でかつ大人数でのWeb会議にも対応するスピーカーフォンの導入が急務でした。そこで、さまざまなメーカーのスピーカーフォンをデモ機として用意し、検討することになりました。

導入後の効果

導入にあたっては、機器の取扱説明書に慣れない職員もいることから、自社で簡単な接続図と、機器の操作方法の順番がわかる資料を作成しました。それもあってか、当初は不慣れだった職員もすぐに慣れ、YVC-1000とパソコンのみで接続する場合には、機器の貸し出しと利用者への説明のみで、誰でも接続できるようになりました。既存の音響機器とパソコンの接続をYVC-1000のみで完結できるので、利用者には好評です。また、これまで円卓・口の字型の配置となっている会議室では、1人ずつマイクをセッティングしなければなりませんでした。今回、拡張マイクを同タイミングで導入したことで、YVC-1000本体を中央に配置して拡張マイクを両端に振り分けられるようになり、全体の収音も可能となりました。

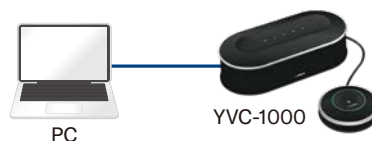


選定のポイント

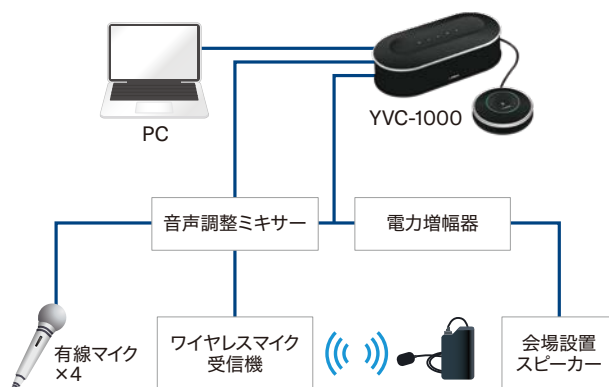
導入にあたり、大会議室(180名収容)を利用してデモ機を用いた接続テストを行いました。実際の利用では、Web会議ソフトを利用して他の会場とつなぐ、討論形式の利用も想定されるため、複数のマイクを当館の音響機器に接続・調整して、音声出力を接続。他会場からWeb会議ソフトを介して音声を入力した場合のハウリング制御や、音質品質の確認を行いました。また、利用者はそれぞれ異なるWeb会議ソフトを使用されることから、接続の容易さも重要になります。施設側の音響機器のない会議室でも、スピーカーフォン単体で音声を聞き取れるかなどさまざまな性能検証を行った結果、音質の高さや扱いやすさを評価して、YVC-1000の導入を決定しました。Web会議で重要な音質が十分に確保されていることが決め手となりました。

機器貸し出しの場合

各Web会議
アプリケーションで
接続



今後の使用イメージ





日本乾溜工業株式会社

導入機種 YVC-1000／1台、YVC-MIC1000EX／2台

導入時期 2021年12月 使用Web会議アプリケーション Google Meet／Microsoft Teams／Zoom

基本構成・使用環境 12m×6mほどの役員会議室(12名程度)または18m×10mほどの大会議室(10～20名程度)でオンライン会議を行うためにYVC-1000とYVC-MIC1000EXを2台使用。

「音」に関する課題解決にYVC-1000を導入。 期待以上の効果でオンライン参加者のストレスが大幅に軽減！

導入の背景

以前にもWeb会議のためにカメラ・マイク・スピーカー・リモコンがセットになった他社製品を導入したことがあったのですが、全社的な利用は思ったほど進まず、主にグループ会社との会議にとどまっていた。ところが、コロナ禍により、対面での会議開催が難しくなり、多くの会議がWebに移行せざるを得ないことに。取締役会など役員が出席する会議もオンラインとなり「声が聞き取りづらい」といった声が多くなってきました。そこで再び他社製の連結式スピーカーフォンを購入したものの、長らく感染症対策によりオンラインでの会議が常態化している中で、さらに性能の良いスピーカーを導入すべきではないかと検討を始めました。

選定のポイント

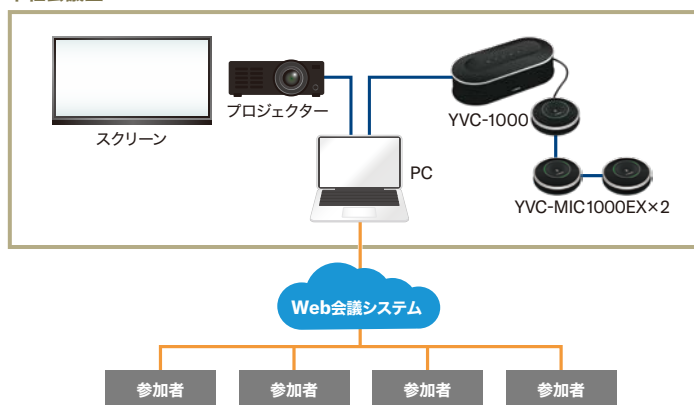
実は、Web会議導入当初の情報収集時より、ヤマハ製品の性能の高さについては認知していました。ただ、当時はWeb会議がまだ定着するかどうか不透明であったことから高額な投資をすることに躊躇し、安価な他社製品を選択したという経緯があります。続く連結式スピーカーフォンを購入した際もコスト面で妥協せざるを得ませんでした。しかし前述のように当社でもWeb会議が急速に浸透するに伴って音に関する要望が非常に多く寄せられるようになり、さらに取引先がヤマハ製品を利用して音質の良さを実感していたことなどから、待望の優秀なノイズリダクションやマイクの拡張性を備えたYVC-1000を採択することになりました。

導入後の効果

以前より実施していた月に一度の取締役会(20名程度が参加)だけでなく、大小さまざまな打ち合わせ・会議の多くでYVC-1000と拡張マイク2台を活用しています。期待以上にクリアな音声が届くようになり、オンライン参加者のストレスが大幅に軽減されたと社内の評判も上々です。今までは「ブツブツと途切れる」「声が小さくて聞こえない」といった問題に対して「①大きな声で ②はっきりと ③1人ずつ」話すといった、一種の「お作法」が必要でした。しかし本機の導入後は普段話すトーンでも聞き取ることができるようになり、オンライン参加者にも状況が伝わりやすくなったためか、以前より発言数も増えたと実感しています。ハイブリッド会議でも、会議室での出席者が意識的にマイクに向かって話す必要がなくなり、スピーカーからの音もクリアに聞こえるため、スムーズに進行することが可能となりました。今となっては、YVC-1000を早く導入しなかったことを後悔するほどです。現在は1セットだけで奪い合いになっているので、早々に追加導入したいですね。



本社会議室





大分県日出町

導入機種 YVC-1000／4台、YVC-MIC1000EX／16台

導入時期 2021年3月

使用Web会議
アプリケーション

-

基本構成・
使用環境 議事録作成システムの精度向上を目指して、ベンダー推奨のYVC-1000+YVC-MIC1000EXを併せて導入し、収音マイクとして利用。その後Web会議増加に伴い3セットを追加導入し、会議の音声品質向上を実現。

議事録作成のスピードアップ&正確性向上に加え、 コロナ禍での会議におけるディスタンス確保にも貢献。

導入の背景

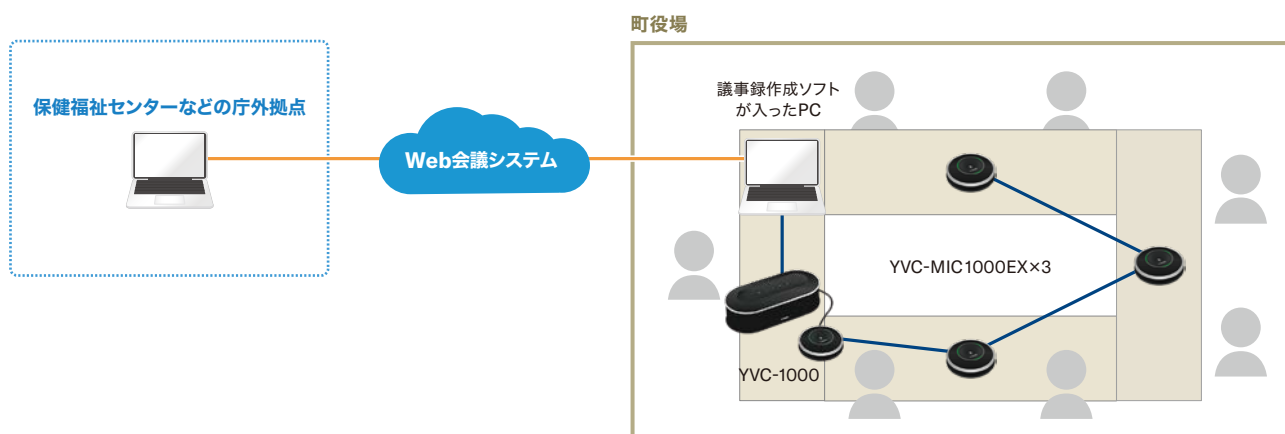
日出町では、日々行われる会議の議事録を、職員が録音を聞き直しながら作成していました。作業負担が大きい上ICレコーダーのマイク性能から録音内容が聞き取りにくく、議事録の正確性という点でも課題を抱えていました。そんな膨大な議事録作成業務を効率化し、本来あるべき住民サービス向上を目指すために、議事録作成システムの導入を決定したところ、併せてベンダーから強く推奨されたのがマイクスピーカーシステムYVC-1000でした。議事録作成システムの音声認識技術は、録音品質に大きく左右されるというのがその理由でした。

導入後の効果

最終的には、コロナ禍対策としてWeb会議が急速に増えていたこともあり、こちらのニーズにも対応するために3台を追加。計4台の導入が決まりました。当初の目的だった議事録作成に関しては、従来は翌日以降の仕上がりが通常であったのが、午前中に開催された会議の議事録がその日のうちに共有されるようになりました。一方のWeb会議では、感染対策のために窓やドアを全開にすることが多く、外からの騒音が懸念されますが、YVC-1000の優れたマイク性能や高出力のスピーカーによって、自拠点／通話先共にクリアな音声を実現。利用者の間でも聞き取りやすいと好評です。YVC-1000と併せて導入したオプションの拡張マイクYVC-MIC1000EXも大いに活躍しており、参加者同士のディスタンスを最大限に確保しつつ、全員の声をしっかり収音できています。

選定のポイント

このようにベンダーから強く推奨されたYVC-1000でしたが、導入前には長期に及ぶトライアルを行い、他社製品を含む複数のマイクを試しました。議事録作成ソフトのテキスト変換技術はまだ発展途上ということもあり、一字一句間違いのないテキスト変換は難しく、必ず変換されたテキストを人がチェックして修正するという作業が残ります。YVC-1000を収音マイクに使用すると、遠くの人々の発言もノイズを抑えてクリアに拾ってくれるため、テキスト変換の精度(正確性)が向上し、最終的に人の手による校正・修正作業の工数削減につながりました。





ユニファイドコミュニケーション
スピーカーフォン

YVC-200



ユニファイドコミュニケーション
マイクスピーカーシステム

YVC-1000



YVC-1000用拡張マイク

YVC-MIC1000EX



ユニファイドコミュニケーション
スピーカーフォン

YVC-331

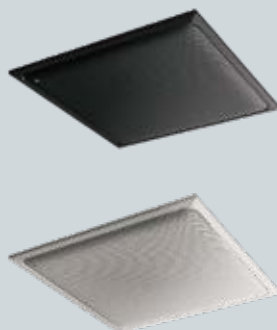


ユニファイドコミュニケーション
スピーカーフォン

YVC-330

ADECIA

ADECIA シーリングソリューション



シーリングアレイマイクロフォン
RM-CGB/RM-CGW

ADECIA テーブルトップソリューション



テーブルトップアレイマイクロフォン
RM-TTB/RM-TTW

ADECIA ワイヤレスソリューション



ワイヤレス指向性
テーブルトップマイクロフォン
RM-WDR



ワイヤレス無指向性
テーブルトップマイクロフォン
RM-WOM



ワイヤレス30cmグースネック
マイクロフォン
RM-WGL



ワイヤレス15cmグースネック
マイクロフォン
RM-WGS



マイクロフォン充電ステーション
RM-WCH-8



8chワイヤレスアクセスポイント
RM-WAP-8



遠隔会議用プロセッサ
RM-CR



インテリジェントL2 PoEスイッチ
SWR2311P-10G



Dante/PoE対応ライン
アレイスピーカー

VXL1W-16P/VXL1B-16P



⚠ 安全に関するご注意 ●本製品の設置、ご使用に関しましては取扱説明書などに記載されている注意事項や禁止事項をよくお読みの上、必ずお守りください。

●本カタログに掲載の商品名・社名等は、各社の商標または登録商標です。●本カタログに印刷された商品の色調は、実際の商品と多少異なる場合があります。

商品の機能や操作法に関するお問い合わせ窓口



プロオーディオ・インフォメーションセンター

(電話受付＝祝祭日を除く月～金／11:00～17:00)

■ 電話 **050-3852-4471**

発信者番号を通知する設定にしておかけください。

■ オンラインサポート <https://jp.yamaha.com/support/>



UCインフォメーションセンター

(電話受付＝土・日・祝日・弊社定休日、年末年始を除く月～金／09:00～12:00、13:00～17:00)

■ 電話 **050-3537-7702**

発信者番号を通知する設定にしておかけください。



FAQ <https://faq.yamaha.com/jp/s/>

よくあるお問い合わせを商品別にまとめております。

購入前の機能確認、購入後の問題解決などにご活用ください。

修理についてのお問い合わせ窓口

株式会社ヤマハミュージックジャパン 修理ご相談センター

固定電話向け ☎ **0120-149-808**

携帯電話／IP電話 **050-3852-4106**

受付時間 月曜～金曜 10:00～17:00(土日・祝日・センター指定定休日を除く)

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2-1-1 JMT京浜E棟A-5F

西日本サービスセンター 〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-13-17 ナンバ辻本ビル7F

YVCシリーズ

Web修理受付

https://sound-solution.yamaha.com/support/uc/repair_info/

お問い合わせ先



このカタログは無塩素漂白 (ECF)
パルプを使用しています

2026年8月作成